

2025 年度学生による後期授業評価アンケートへの

教員からのコメント

■基礎演習2/小林伸行

前年度の「基礎演習Ⅱ」と比べて、授業の難易度を尋ねた設問6では、「とても難しかった」が30→18.2%、「難しかった」が10→36.4%、「適切だった」が50→45.5%、「易しかった」が10→0%と推移しており、概ね前年度と同水準と言えるものの、一部の学生にはやや難しいと感じられる傾向が続いている点が浮き彫りになりました。

ただ、27.3%（3名）が「とても難しかった」、45.5%（5名）が「難しかった」、残りの27.3%（3名）が「どちらともいえない」と回答し、例年になく高度な内容と感じる学生の割合が多かった前期の「基礎演習Ⅰ」に比べると、多少なりとも適度な難易度に修正できてはいたことが示唆されており、したがって一定程度、前期の反省・対策を行った効果が現れたものと思われます。

また、授業全体をよく理解できたか尋ねた設問14でも、前年度に比べて「強くそう思う」が10→27.3%、「そう思う」が70→45.5%、「どちらとも言えない」が20→27.3%となっており、全体としては適正化を進めることができていた傾向も示唆されます。

主な課題としては、設問17の「難しいと思った課題の内容」（複数回答）に対して、回答3「課題内容（に関する教員の指示・補足説明）の理解」が54.5%（6名）と過半数を超えたことが挙げられます。

これは、授業への感想・意見を尋ねた設問19でも、「少し内容が分かりづらい時が多かった」という意見があったことから、①「教員の指示」が抽象的すぎたり曖昧に感じられていた可能性や、「議論などの議題は過去の授業で行ったことや、全員が知識をおさえているものであれば取り組みやすいと感じたので、そういった方向性で進めてくれればありがたいです」という意見があった

ことから、②教員の「補足説明」が不足していて、授業内容の前後のつながりが見出しにくかったり、過去の授業で学生と共有済みの情報を活かしきれていなかったりした可能性などが示唆されました。

よって、より丁寧な（個別）指導を行うのはもちろん、授業相互の関連づけを強めるように構成を変更するなどの対策が必要と考えられます。

また、同じ設問 19 で、「課題が多く、他の授業に比べて負担が大きすぎる」という意見もあったことから、一部の（恐らく、当該年度のみ大量の「予習」を設けたために、資料を読み込むことが苦手で苦痛に感じられた）学生にとっては、授業の質・量両面で負担感の強い構成になっていたと考えられます。

よって、対策として次年度は、「予習」を明示的に設定する（＝事前の課題として実施を求める）ことはほぼなくし、授業時間内に完結するように構成を変更する予定です（し、既にそのように変更して実施中です）。